

三一九九番

海の底わたそこ 沖は恐しおきかしこ 磯廻りいそみより 漕ぎたみ行かせこ  
月は経ぬともつきへ

三二〇〇番

飼飯の浦にけひうら 寄する白波よしらなみ しくしくに 妹が姿はいもすがた  
思ほゆるかもおも

三二〇一番

時つ風ときかせ 吹飯の浜にふけひはま 出で居つついでゐ 贖ふ命はあかいのち 妹いも  
がためこそ

三二〇二番

熟田津ににきたつ 舟乗りせむとふなの 聞きしなへき なにかも  
君がきみ 見え来ざるらむみこ